

九州ルーテル学院大学

Teaching Portfolio

2025



所 属： 人文学科保育・幼児教育専攻

名 前： 三井 真紀

ティーチングポートフォリオ

作成日：2025 年 4 月 30 日

教員氏名：三井 真紀

所属：人文学部 人文学科 保育・幼児教育専攻

1. はじめに

九州ルーテル学院大学に着任後、様々な大学改革や学内の学科等編成を経験しながら、常に保育・幼児教育の主要科目を担当していることに、意義と責任を感じている。保育者養成大学の教員として、社会の「望まれる保育者像」を探究するために、自身の教育活動について振り返りたい。

2. 教育の責任

人文学科保育・幼児教育に所属している。専任教員として、専攻学生全学年を対象とした保育に関する主要科目を担当している。授業実施にあたっては、本学の教育の基本的な理念・カリキュラムに基づき、自身の特色を生かした教育理念が実現できるよう努力を重ねている。

(1) 授業科目の担当

直近3年間は、以下の科目を担当している。

科目名	開講時期	履修者数	備考
保育原理	前期	30	選択必修
保育者論	後期	30	選択必修
幼児教育課程論	後期	30	選択必修
幼児教育方法	後期	30	選択必修
幼児理解	前期	30	選択必修
保育内容（総論）	前期	30	選択必修
保育内容（表現）	後期	30	選択必修
フレッシュマンゼミ	前期	30	選択必修
チャイルドケアゼミ	後期	30	選択必修
保育実践演習	前期	30	選択必修
教職実践演習	後期	30	選択必修
特別研究	後期	6	卒業必修
卒業研究	通年	6	卒業必修

■ 主要授業科目

- ◇保育内容（総論）…1 年次対象。日本の保育・幼児教育ガイドラインの全体像を学ぶ。
- ◇保育原理…2 年次対象。保育の目的・方法・内容・変遷等について総合的に学ぶ。
- ◇保育者論…倫理観、人権、保育者のライフワークなどについて考察し、学ぶ。

■ 非常勤講師

なし

(2) 教育組織運営

2023 年→FD・SD 委員会（委員長） 2024 年度より研究推進委員会（委員長）

3. 教育の理念

保育者養成大学の教員としての役割は、次世代の健全な保育者養成である。役割を果たすための基本的な理念は、次の 3 点である。

(1)理念 1 教育活動と研究活動の相互バランスのとれた学生指導

(2)理念 2 教員としてのモデルの提示

(3)理念 3 保育者養成大学（4 年制）ならではの、知識・自信・責任のある学生指導

4. 教育の方法

(1) 自身の専門性を生かした教授活動

(2) 教員、保育者、社会人として、心身ともに健康な人生を送るための議論

(3) 各論の充実、バズセッション、卒業研究などの充実と課外活動のサポート

5. 教育改善のための努力

担当教科は、いずれも保育・幼児教育にかかわる主要専門科目であり、学生にとっては、過去の学びとは違う、方法論、難解な単語や思想史にあふれている。教授側として、それらの内容が、いかに実社会とかかわりあっているのかを、身近なエピソードを駆使して伝える努力をしている。同時に、机上での学びが「子どもの最善の利益」につながるものであることを、映像や相互の語りから学べるようなセッションを取り入れている。

(1)改善努力 1 授業評価アンケートと授業改善報告書の活用

経験カリキュラムを重視した学びを行う中で、学生によっては十分な体験や学習がされていない（提出課題の内容から評価）場合が見られた。学生の学びのプロセスをより丁寧な観察する（たとえば提出物の途中経過を確認するなど）方法を検討したい。

(2) 改善努力2 現代社会に適応した教育方法への移行

主体的な学びを重視する授業を展開する一方で「指示をほしい」学生がいるなど、従来の大学教育とは違う学び方を模索する時期にあると考える。幼少期からの学び方も大きくかわっていることを踏まえ、現代社会に適応した教育方法を常に考えている。学生の実性によっても、課題を個別に提示するなど工夫を重ねたい。一方で、保育・幼児教育の学びを通して、効率や生産性ばかりを大切にする現代社会の歪みについても意識できるよう心掛けている。

6. 教育の実果・評価

最新の授業評価において「授業内容の意義や必要性を十分に説明してくれた」3.93点（保育内容／4点満点）、「授業内容はあなたに役に立つものでしたか」3.97点（保育原理／4点満点）など高評価を受けている。また、すべての自由記述者から、講義内容についてはポジティブな内容を受けている

7. 今後の教育に関する課題と目標

保育の役割が多様化する中、保育者養成大学における教員の役割も多様化している自覚が大事である。自身に課せられた役割を踏まえ、とりわけ、以下の3点を課題・目標として挙げたい。

1) 保育・幼児教育の未来に向けた学び

保育・幼児教育は、未来である。全学生の学力の底上げをし、生涯、学び続けられる保育者になることは、未来を支える重要な役割だと考える。目標達成のために、授業時間を大切に、時には「考える課題」を存分に提供しながら学習の機会を保障したい。より深く効果的な学びを実現するために、養成校としての方法論の開発も課題である。

2) 人権意識をもった保育者集団の構築

学部生はもちろん、現職保育者に向け、保育現場の人権を意識した学びを進めたい。保育現場のステレオタイプ、保護者との連携、保育者不足、こどもの虐待問題など いずれも保育現場の人権問題にかかわっている。未来の健全な保育現場を構築するために、大学人として学びの機会をととして問題提起していくことを続けたい。

3) 共に学べる教員として

保育・幼児教育を学んだ学生時代を経て、既に30年以上が経過している。その過程で、世界の保育は大きく変わり、大切にされる内容も変化している。このような現実を受け入れながら、現役の研究者として研究活動をつづけたい。また、研究を通して得られた見地を学生と共有し、保育の発展につなげることをあきらめないことを課題としたい。なにより、学生と共に学び、時には迷える教員として、大学という場で、役割を全うすることを目指したい。

【根拠資料】

- (1) 担当科目シラバス 保育原理 保育者論 幼児教育課程論 幼児教育方法 幼児理解 保育内容（総論） 保育内容（表現Ⅰ） 乳児保育Ⅰ フレッシュマンゼミ チャイルドケアゼミ 保育実践演習 教職支援演習 特別研究 卒業研究
- (2) 授業評価アンケート結果（2024） 保育原理，保育内容（総論），幼児理解